



## 「ロータリーソングについて

例会時に歌を歌う風習は、112 年前シカゴ RC で始まったそうです。親睦か奉仕かの大論争で、ぎすぎすしたクラブの雰囲気や和らげようと歌い出したのが始まりとされています。当時はロータリーソングなんて、まだありませんので民謡や流行歌が歌われたそうです。

「奉仕の理想」「我らの生業」等のロータリーソングは、初めての日本語オリジナルのロータリーソングだそうです。

1935 年(昭和 10 年)、現在の第 2650 地区大会でロータリーソングが募集され、当選した第 1 位の作品が「旅は道づれ」という曲です。

旅は道づれ世はなさけ なさけは人の為ならず 世は明鏡(めいきょう)のやどす影 うつす形を偽(いつわ)らず わがほほえめば 影も笑む

しかし、この曲の一部に盗作があったため、後に失格となり、第 2 位の「奉仕の理想」が繰り上げ当選になったそうです。

今日も「奉仕の理想」を歌いましたが

奉仕の理想に 集いし友よ 御国に捧げむ 我らの業 望むは世界の 久遠の平和めぐる歯車 いや輝きて 永久に栄えよ 我らのロータリー ロータリー

この歌詞の中で「御国に捧げん」の「御国」の部分が世界と共に歩もうとしているロータリーの考え方と少しズレがあると言われています。

実は、この曲の原詩は、「御国に捧げん」ではなく、「世界に捧げん」だったそうです。

当時のガバナーは、この「世界に捧げん」を「御国に捧げん」に変えなければ、当選は無効と宣言されたそうです。

「御国」という言葉に変えたのは英語が敵性語とされ、米国由来のロータリーに世間の冷たい目が向けられようとしていた時代にロータリーの組織を守ろうとする苦肉の策だったかも知れません。

作詞された方は泣く泣く承諾されたそうです。後に亡くなる前に「もし出来ることなら何時の日か、原詩の『世界に捧げん』に戻していただければありがたい」と遺言されたそうです。実際、「奉仕の理想」が発表された昭和 10 年の 5 年後には日本のロータリークラブは国際ロータリーを脱退し、解散を余儀なくされました。

そうしたロータリー苦難の時代を耐え抜いた、この歌の歴史は尊重しなければなりません。新しい時代に生きる私たちには「御国」を「世界」でも「地域」でも「社会」でも自由に置き換えて歌っても良いのではないのでしょうか。

そのような平和な国になったことに幸せを感じたいと思います。

ちなみに第 3 位は、おなじみの「我らの生業」です。

私達も 55 周年という年を迎えています。

どなたかリズムカルで歌いやすい『甲子園ロータリークラブ』の歌を作ってみて、くれませんか。